令和6年度　江戸川区立平井南小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	体をきたえ　　心をひらいて　　みずから学ぶ子 なかよく助け合う子 みらいへたくましく進む子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・児童、 教職員、地域にとって行きがいのある学校 ・自ら学び、友達と仲よく、目標をもって粘り強く努力し、元気に生活しようとする児童 ・教育の専門職としての自信と誇りをもち、熱意をもって職務や自己研さんに励み、児童・保護者・地域等から敬愛され信頼される教師
前年度までの本校の現状	成果	・「共生社会の実現に向けた教育の推進」について、校内外の組織や関係諸機関等との連携や校内研究を核とした取組を充実させることができた。 ・「特色ある教育の展開」について、異学年集団活動の推進や充実を図ることで、自他を思いやる心を育成することができた。	課題	・「学力の向上」について、基礎的・基本的な内容の定着に資する指導や教材等を含む教育環境等の整備の充実を推進していく。 ・「体力の向上」について、休み時間の時間帯を活用した「いきいきタイム」の活動内容の充実や評価方法の工夫などを推進していく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「学力向上アクションプラン」に基づく取組を核とした基礎・基本の確実な習得	・年３回実施する定着度調査で、平均正答率を５％以上向上させる。	C		B	・「学力向上アクションプラン」に基づく取組の徹底に課題がある。	B	・達成度の向上に向けて取組の推進や充実をお願いしたい。 ・日本語を母語としない児童への支援や指導が必要である。					
		・授業におけるＩＣＴの活用の促進	・１日２単位時間以上授業でＩＣＴを活用している教員を80%以上にする。	A		A	・授業におけるＩＣＴの活用の取組目標の達成により、学習内容の定着等に効果を感じている。	A	・基礎・基本について、楽しく学習できる方法で良い。					
	○読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実	・児童一人当たりの年間平均図書貸出数を40冊以上にする。	A		B	・児童の興味関心に応じた読書環境の整備や主体的に読書に取り組む態度の向上に課題がある。	B	・情報技術の向上や革新が激しいが、読書の時間を増やすような生活習慣を身に付けさせていってほしい。					
体力の向上	○体力向上のための取組の充実	・主体的に運動に取り組む態度の育成	・体力テストの結果等を踏まえた体育朝会等の取組を年５回実施する。	A		A	・体育朝会等の取組の日常の指導への活用や、気象条件の影響を考慮した取組の検討に課題がある。	A	・児童に保護者と外で遊ぶことを楽しんでもらいたい。 ・気候変動対策が必須だと改めて感じた。					
		・「江戸川っ子なわ跳びチャレンジ」の取組の充実	・各学期の取組において上達段階の割合を５％ずつ向上させる。	C		C	・取組の推進はできているが、効果検証方法等や効果検証結果を踏まえた取組の充実に課題がある。	C	・取組の効果検証や効果検証結果を踏まえた取組に期待したい。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実	・特別支援教室、SC、巡回心理士との連携による個に応じた指導の充実	・個に応じた指導のための情報共有を週１回程度実施する。	A		A	・個に応じた指導のための情報共有ができており、支援体制の整備や多角的な指導に効果を感じている。	A	・特別な配慮や支援を必要としているお子さんへの対応について、引き続き取り組んでいただきたい。					
	○エンカレッジルームの活用促進	・特別支援教育コーディネーターの複数配置による組織的な対応の充実	・やむを得ず教室に登校できない児童等の居場所や学習機会等を確保する。	A		A	・エンカレッジルーム担当表を作成し、やむを得ず教室に登校できない児童等に対する組織的な対応ができている。	A	・児童が学校に「居場所がある」と感じられることが重要だと改めて感じた。					
	○副籍交流の実施	・対象児童の実態や受け入れ条件等に応じた交流の実施及び共同学習の検討	・各種便りの交換による交流等を月１回程度実施する。	B		B	・対象児童在籍校からの申し出により、「籍のみ」の交流として推進している。	B	・交流の機会に留まらず、地域に暮らす復籍校在籍児童への理解を促進していくことなども考えられるのではないか。					
不登校・いじめ対応の充実	○不登校対応の充実	・SC、SSW及び関係諸機関等との連携の充実	・どこにもつながりがもてていない不登校児童を０「ゼロ」にする。	A		A	・児童に関する情報を週1回以上、SCやSSWと共有し、不登校傾向児童の早期発見・早期対応に努めている。	A	・孤立を減らすという考え方が大切だと改めて感じた。そのためにも、関係諸機関等との緊密な連携を継続してほしい。					
	○いじめ対応の充実	・児童の問題行動等の未然防止、早期発見、組織的な早期対応	・いじめが認知された場合の、３か月以内の解消を目指す。	A		A	・生活指導主任を中心にいじめ対策委員会を開き、未然防止、早期発見、組織的な早期対応ができている。	A	・いじめ等の児童の問題行動等については、問題の原因に焦点を当てた支援や指導、家庭への働きかけが重要だと考える。					
	○hypaer-QUの活用	・「hyper-QU」の調査結果の共有や分析に基づく指導等の充実	・個人面談の機会を活用した保護者との情報共有を年１回行う。	B		B	・「hyper-QU」の調査結果の指導への活用に課題がある。	B	・「hyper-QU」がどういったものなのかについて、理解を促進していくことが必要だと考える。					

学校（園）の実現 地域社会に開かれた	○学校ホームページの充実等	・各学年等による「学校ホームページ」の更新	・各学期中週１回程度の更新を行い、情報発信の充実を図る。	C		C	・「学校ホームページ」の更新について、月ごとの公開回数や頻度に差があるなど、計画的な情報発信に課題がある。	C	・魅力ある「学校ホームページ」となるよう、充実をお願いしたい。					
	○ＩＣＴを活用した連絡や情報共有の充実	・ＩＣＴを活用した連絡や情報共有の充実	・保護者対象の意識調査における肯定的な回答の割合を80%以上にする。	C		B	・各行事や取組に関するアンケート等、保護者や地域との双方向による情報共有に課題がある。	B	・教職員の業務もスムーズになるように活用してほしい。					
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校関係者評価委員による参観機会等の確保や情報発信の充実による適正で適切な評価の実施	・学校行事等を活用した参観及び評価の機会を年６回程度設定する。	A		A	・参観及び評価の機会を教育活動の充実に還元することができるよう努めている。	A	・参観機会等を学校の状況を理解することに活用できるようにしていきたい。					
教育の展開 特色ある	○異学年集団活動による自他を思いやる心の育成	・異学年集団による定期的な「ふれあい班活動」や年１回の全校遠足の実施	・保護者対象の意識調査における肯定的な回答の割合を80%以上にする。	B		B	・昨年度より「ふれあい班活動」の回数を増やすことで、異学年集団で学び合う機会を充実させることができている。	B	・異学年集団による教育活動が自他を思いやる心の育成につながっていくことに期待している。					
	○「本物」を見る、知る、聞く、触れる教育の推進	・外部講師を招聘した取組の年２回程度の実施		B		B	・「子どもを笑顔にする体験プロジェクト」や「校内音楽教室」等、特色ある教育活動の充実を図ることができている。	B	・視野を広げ、社会に興味をもてるよう継続してほしい。 ・プロから学ぶ機会は良い刺激になると考える。					
	○地域の人材や環境を活用した教育の推進	「学校応援団」による「読み語り」や「平和学習」等の地域の人材や環境を活用した教育の推進		B		B	・地域を活用した教育の推進により、特色ある教育活動の充実や地域を大切に思う心の育成に効果を感じている。	B	・地域に対する理解を更に深められるよう、充実した教育をお願いしたい。					